

白石市公園整備構想基本計画(案)

令和8年7月

白石市

— 目次 —

第1章 白石市公園整備構想基本計画について……………	1
1-1 白石市公園整備構想基本計画の目的……………	1
1-2 白石市公園整備構想の概要……………	2
1-2-1 機能改修型……………	2
1-2-2 機能更新型……………	2
1-2-3 機能創造型……………	2
1-3 上位・関連計画との位置づけ……………	3
第2章 機能改修型公園の整備方針の検討……………	4
2-1 機能改修型公園の現状と課題……………	4
2-2 機能改修型公園の整備方針……………	5
第3章 機能更新型公園の整備方針の検討……………	6
3-1 機能更新型公園の現状……………	6
3-2 上位計画・関連計画の公園整備方針の整理……………	9
3-2-1 総合計画における公園整備の方針……………	10
3-2-2 マスタープランにおける公園整備の方針……………	11
3-2-3 立地適正化計画における公園整備の方針……………	12
3-2-4 本市の計画・構想における公園整備の方針の整理……………	13
3-3 機能更新型公園の整備方針……………	14
3-3-1 機能更新型公園の整備方針……………	14
3-3-2 整備方針の検討ステップ……………	14
第4章 機能創造型公園の整備方針の検討……………	16
4-1 上位計画と機能創造型公園の整備における整合性……………	16
4-1-1 総合計画との接点……………	16
4-1-2 マスタープランとの接点……………	20
4-1-3 白石市立地適正化計画との接点……………	22
4-2 上位計画との関連における機能創造型公園の整備の方向性……………	23
4-3 益岡公園の整備方針の検討……………	24
4-3-1 益岡公園の現状整理……………	24
4-3-2 益岡公園を取り巻く課題……………	24
4-3-3 益岡公園の課題解決の方向性と整備コンセプト……………	25
4-4 益岡公園の整備像と整備の考え方……………	27
4-4-1 益岡公園の整備像……………	27

4-4-2	益岡公園の整備方針の検討ステップ	27
4-5	スパッシュランドパークの整備方針の検討	28
4-5-1	スパッシュランドパークの現状整理	28
4-5-2	スパッシュランドパークを取り巻く課題	29
4-5-3	スパッシュランドパークの課題解決の方向性と整備コンセプト	29
4-6	スパッシュランドパークの整備像と段階的整備の考え方	31
4-6-1	スパッシュランドパークの整備像	31
4-6-2	スパッシュランドパークの整備ステップ案	33
4-7	機能創造型公園の整備の展望	34

第1章 白石市公園整備構想基本計画について

1-1 白石市公園整備構想基本計画の目的

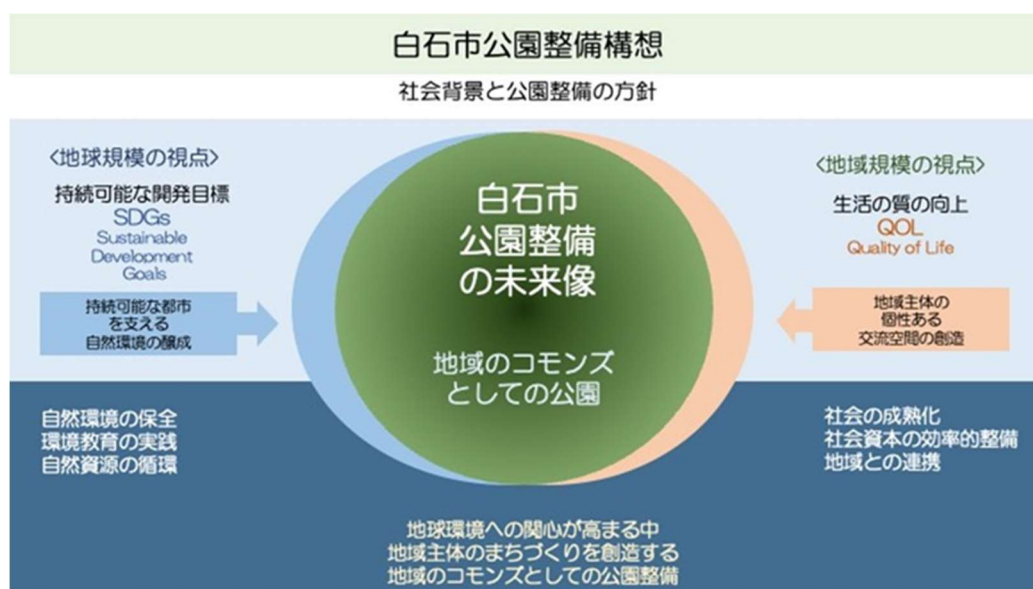
本市では、人口減少や少子高齢化の進行、公共施設の老朽化など、社会環境が大きく変化している状況にあり、都市公園に求められる役割についても、従来の考え方を見直す必要が生じています。

このため、公園施設の長寿命化を着実に進めるとともに、限られた財源の中で、公園の価値や魅力を戦略的に高めていく視点が重要となっています。

その上で、本市の公園の将来像と整備コンセプトを明確にするため、令和6（2024）年度に、「白石市公園整備構想（以下「公園整備構想」という。）」を策定しました。

「白石市公園整備構想基本計画（以下「本計画」という。）」では、公園整備構想で掲げた公園の将来像から、対象公園の具体的な整備方針を示すことを目的としています。

図 公園整備の基本コンセプト

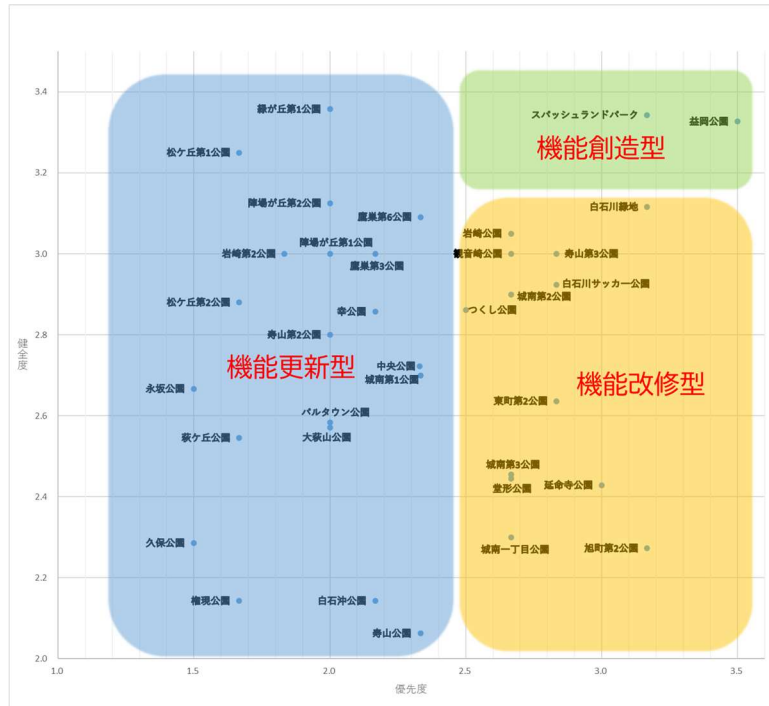


< 出典 > 白石市公園整備構想（令和7年3月）

1-2 白石市公園整備構想の概要

公園整備構想では、客観的な指標に基づく優先度評価及び公園施設の劣化状況や安全性を把握する健全度評価により、公園を3つの類型に分類しました。

図 公園のグループ別分布



< 出典 > 白石市公園整備構想 (令和7年3月)

1-2-1 機能改修型

- ① 優先度が高く、健全度が低い評価を得る公園が対象です。
 - 長寿命化計画に基づく優先的な公園施設の長寿命化
 - 公園施設の使用頻度や劣化状況に応じた改修・更新による公園機能を維持

1-2-2 機能更新型

- ① 優先度が低い公園で、社会情勢の変化に対応した整備を進めます。
 - 地域の状況に応じた公園利用の検討

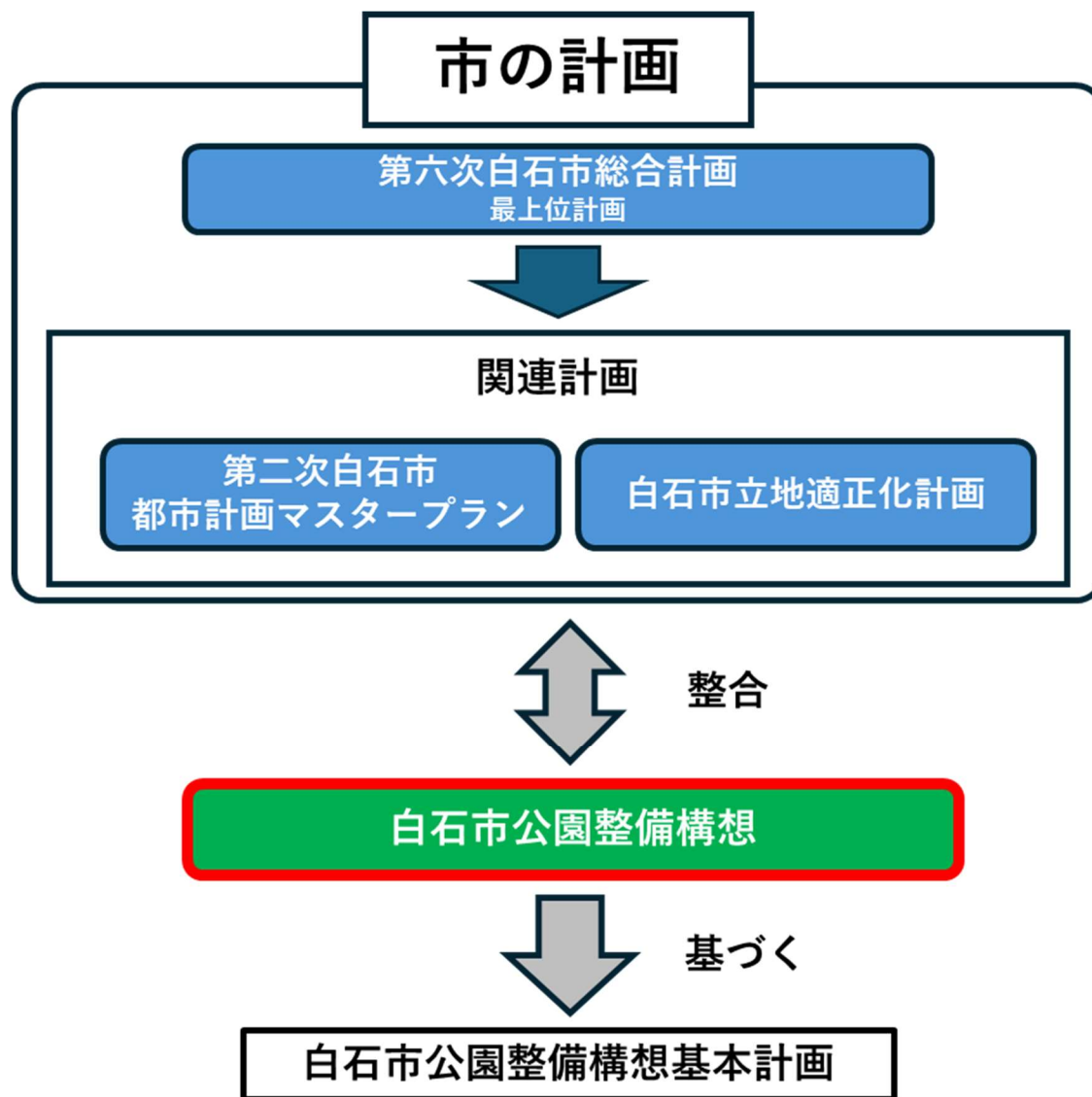
1-2-3 機能創造型

- ① 優先度、健全度ともに高い評価を得る公園が対象です。
 - 都市公園の将来像を踏まえた新たな公園創造の推進
 - 必要に応じた長寿命化対策の実施
 - 公園の機能や付加価値を高める
- ② 公園利用者の利便性向上を図り、市民そして来訪者に白石市のシンボルとして認知される公園を目指します。

1-3 上位・関連計画との位置づけ

本計画を策定する上で、本市が策定した第六次白石市総合計画（以下「総合計画」という。）、第二次白石市都市計画マスタープラン（以下「マスタープラン」という。）および白石市立地適正化計画（以下「立地適正化計画」という。）と、公園整備構想が整合するように整理します。

図 上位・関連計画との位置づけ



第2章 機能改修型公園の整備方針の検討

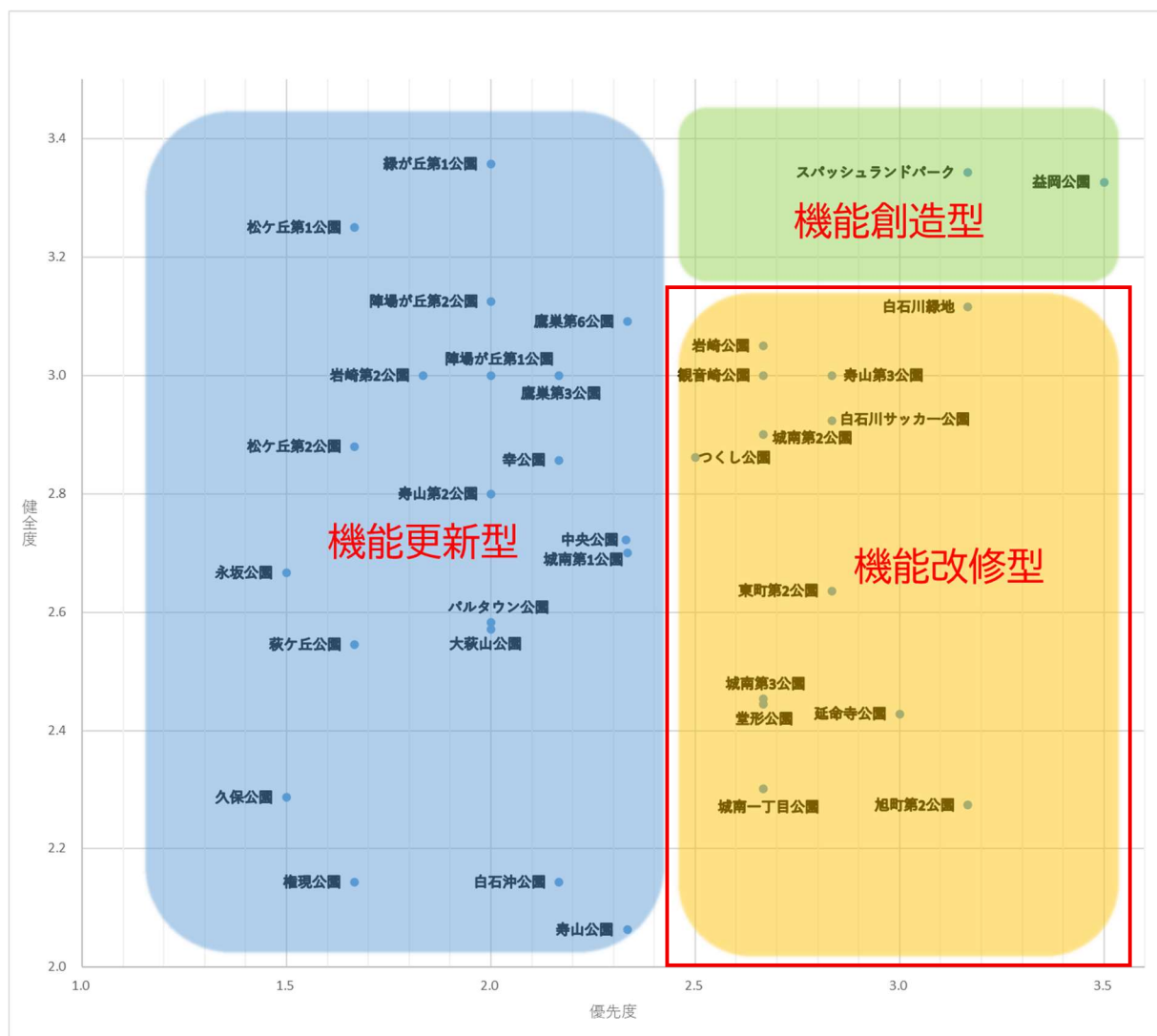
令和 6（2024）年度に策定した公園整備構想では、機能改修型公園は長寿命化計画に基づき、優先的に公園施設の長寿命化を図り、公園施設の使用頻度や劣化状況に応じた改修・更新による公園機能を維持するものと位置付けました。

機能改修型公園の代表例は、白石川に隣接し、運動施設を有する白石川緑地、白石川サッカー公園や、利用者の意見を取り入れて整備したつくし公園などが該当します。

2-1 機能改修型公園の現状と課題

優先度評価が高く、自然環境、文化環境、社会情勢の総合評価が高得点であるが、健全度評価による遊具や設備の劣化状況において、優先的な改修が必要と判断した公園が対象になります。

図 公園のグループ別分布



< 出典 > 白石市公園整備構想（令和 7 年 3 月）

表 機能改修型公園一覧

No.	公園名	No.	公園名
1	白石川緑地	8	堂形公園
2	旭町第2公園	9	城南第3公園
3	延命寺公園	10	城南第2公園
4	寿山第3公園	11	城南一丁目公園
5	東町第2公園	12	観音崎公園
6	白石川サッカー公園	13	つくし公園
7	岩崎公園		

表 機能改修型公園の健全度および優先度一覧

順位	No.	公園名	健全度平均	優先度評価
2	3	白石川緑地	3.12	3.17
2	11	旭町第2公園	2.27	3.17
5	26	延命寺公園	2.43	3.00
6	29	寿山第3公園	3.00	2.83
6	12	東町第2公園	2.64	2.83
6	4	白石川サッカー公園	2.92	2.83
9	35	岩崎公園	3.05	2.67
9	31	堂形公園	2.44	2.67
9	23	城南第3公園	2.45	2.67
9	22	城南第2公園	2.90	2.67
9	9	城南一丁目公園	2.30	2.67
9	8	観音崎公園	3.00	2.67
15	14	つくし公園	2.86	2.50

<出典>白石市公園整備構想（令和7年3月）「都市公園の健全度一覧」及び「都市公園の優先度評価結果」を基に作成

2-2 機能改修型公園の整備方針

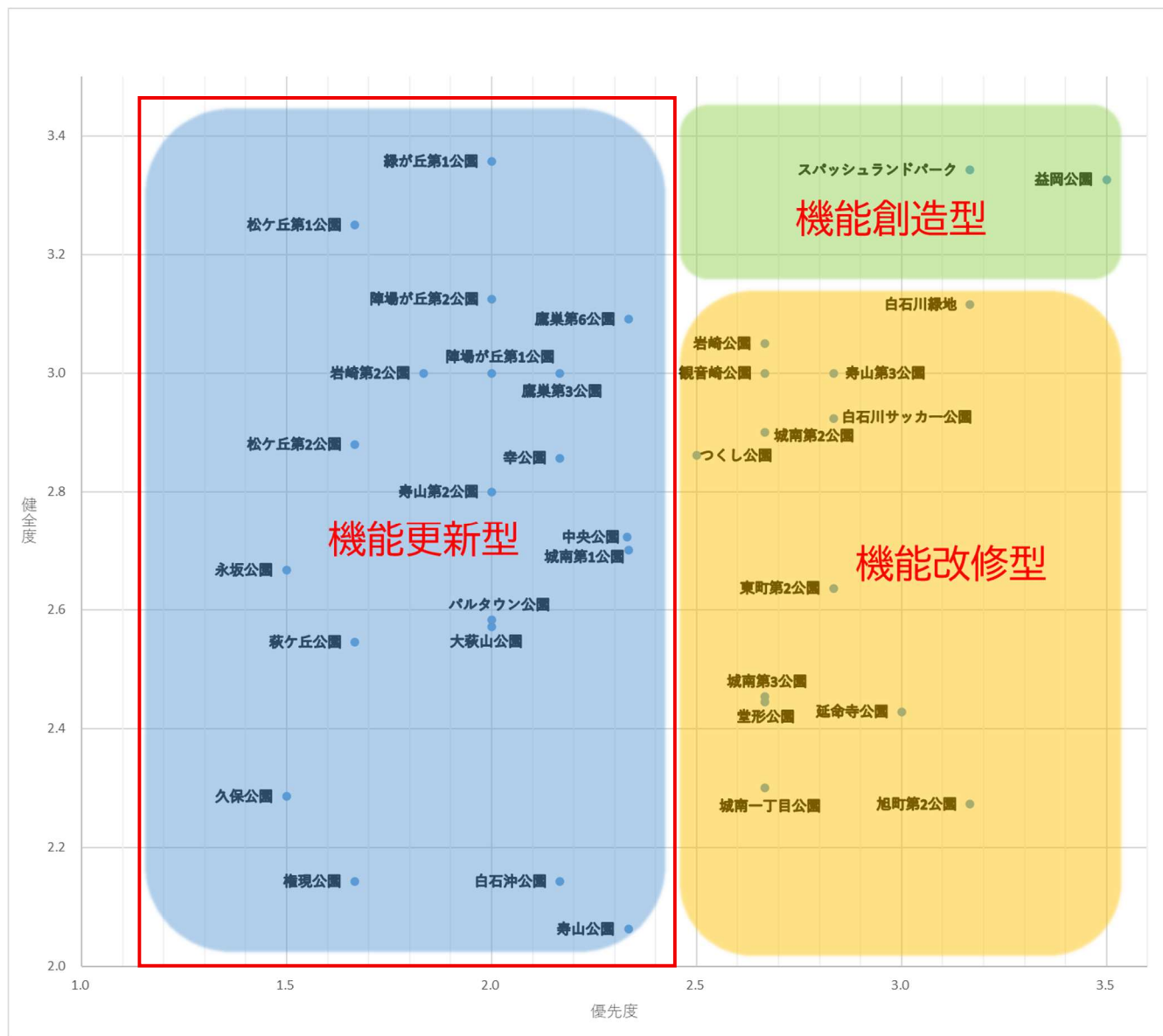
機能改修型公園は周囲に自然があり園内も緑が多い自然環境や、文化施設や神社仏閣が園内に存在、または隣接に存在する文化環境に恵まれた公園です。そのため、これらの公園は需要が高いことが見込まれ、優先的に整備する必要があります。そのため、「白石市公園施設長寿命化計画（以下「長寿命化計画」という。）」に基づき優先的な公園施設の長寿命化を図り、公園機能を維持していきます。

第3章 機能更新型公園の整備方針の検討

令和 6（2024）年度に策定した公園整備構想では、機能更新型公園は、社会情勢の変化に対応した整備を進めるもので、地域の状況に応じた公園利用を検討する公園と位置付けました。

住宅地開発によって画一的に整備された公園が多く該当し、次の公園を「機能更新型」として分類しました。

図 公園のグループ別分布



< 出典 > 白石市公園整備構想（令和 7 年 3 月）

表 機能更新型公園一覧

No.	公園名	No.	公園名
1	大萩山公園	11	松ヶ丘第1公園
2	中央公園	12	白石沖公園
3	寿山公園	13	鷹巣第6公園
4	松ヶ丘第2公園	14	パルタウン公園
5	城南第1公園	15	緑が丘第1公園
6	陣場が丘第1公園	16	寿山第2公園
7	陣場が丘第2公園	17	岩崎第2公園
8	幸公園	18	久保公園
9	萩ヶ丘公園	19	永坂公園
10	権現公園	20	鷹巣第3公園

3-1 機能更新型公園の現状

公園を取り巻く環境や利用状況は時代と共に変化し、機能更新型公園も、整備当時と比較すると人口減少や少子高齢化による公園の利用形態の変化、公園周辺の人口構成や周辺環境の変化などが見受けられます。

① 人口動態

本市は、図のとおり今後も高齢化の傾向が続くと予測されています。また、寿山公園や久保公園の周辺は年少人口が減少する予測がされています。

図 令和 2(2020)年 高齢化率

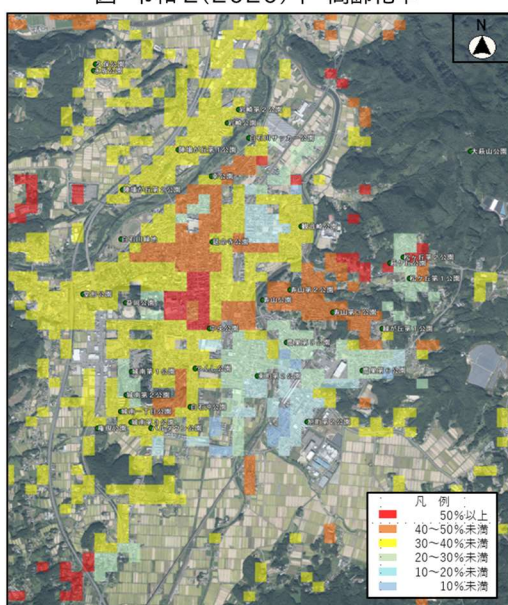


図 令和 22(2040)年推計 高齢化率

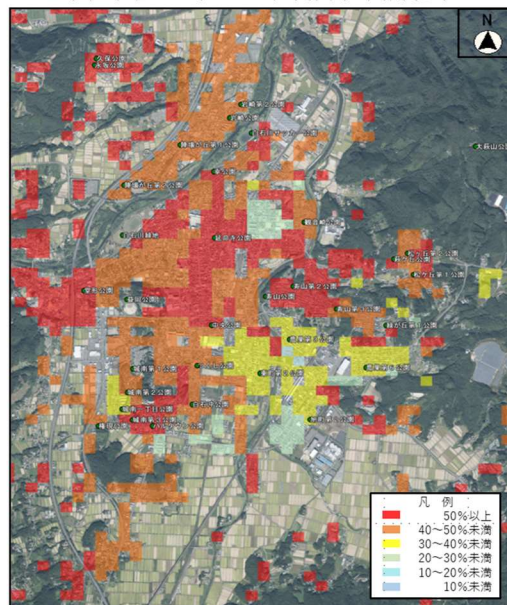


図 令和2(2020)年 年少人口

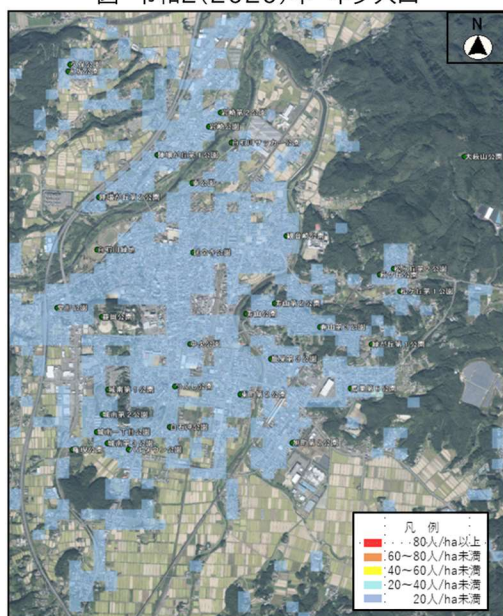
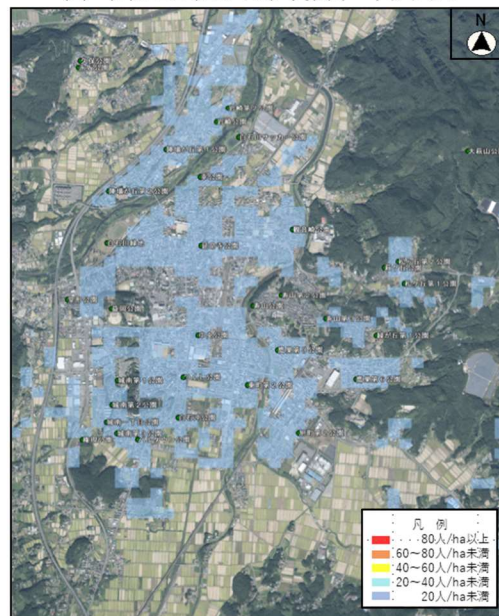


図 令和 22(2040)年推計 年少人口



<出典> 白石市公園整備構想（令和 7 年 3 月）

② 公園愛護会

機能更新型公園の中には、地域住民によって日頃の公園の維持管理を担う、公園愛護会が結成されている公園があります。

表 愛護会により管理している公園

No.	公園名
1	松ヶ丘第1公園
2	松ヶ丘第2公園
3	萩ヶ丘公園
4	陣場が丘第1公園
5	陣場が丘第2公園
6	幸公園
7	権現公園
8	パルタウン公園
9	緑が丘第1公園
10	寿山第2公園
11	岩崎第2公園
12	鷹巣第3公園

③ 災害時の避難場所

機能更新型公園においては、災害時の避難場所や一時避難場所に指定されている公園も見られます。

表 災害時の避難場所、一時避難場所に指定されている公園

No.	公園名	種類
1	中央公園	避難場所
2	松ヶ丘第2公園	一時避難場所
3	幸公園	一時避難場所
4	萩ヶ丘公園	一時避難場所
5	松ヶ丘第1公園	一時避難場所
6	鷹巣第6公園	一時避難場所
7	パルタウン公園	公園内の集会所が一時避難場所
8	鷹巣第3公園	一時避難場所

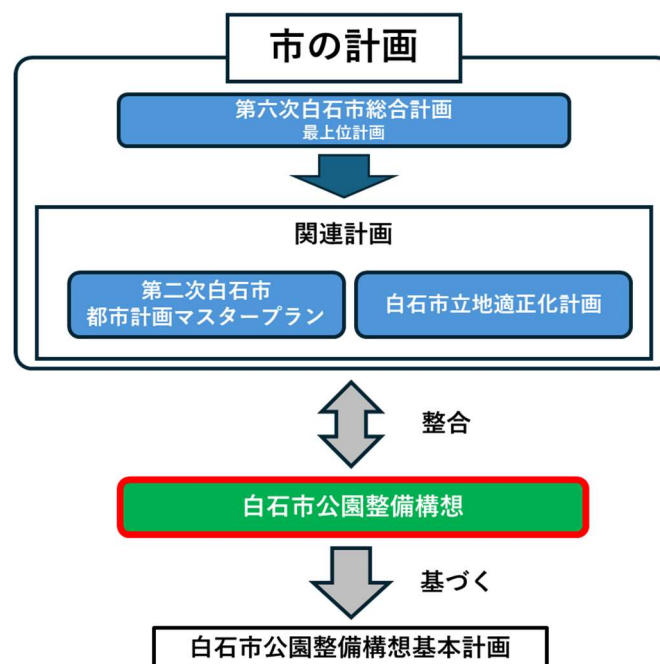
<出典> 白石市ハザードマップ（令和7年7月）

3-2 上位計画・関連計画の公園整備方針の整理

本計画における機能更新型公園の整備方針については、公園整備構想と関連計画における公園整備の方針・考え方を考慮しながら検討する必要があります。

本計画では、本市の最上位計画である総合計画、本市のまちづくりの基本方針であるマスタープラン、立地適正化計画と整合を図ることとします。

図 上位・関連計画との位置づけ



3-2-1 総合計画における公園整備の方針

総合計画では、本市の都市公園の整備について以下のように記しています。

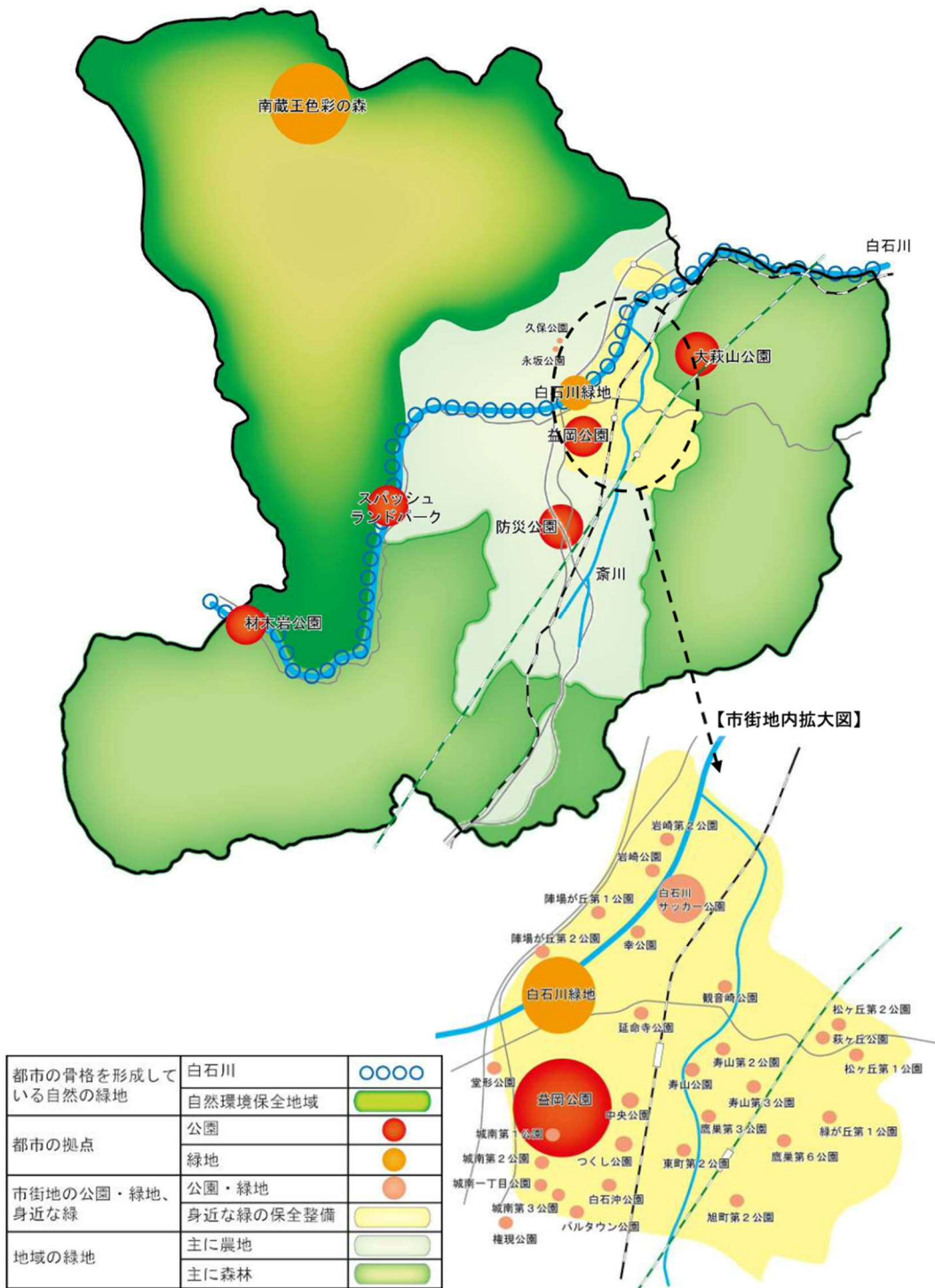
分野目標「魅力ある都市空間の整備」	
施策の方向性	市民の憩いの場や防災機能を有している公園や緑地を安全・安心に長期間利用できるよう、市民協働による公園管理や緑化活動に取り組みます。
主な取組 「市民協働による 緑化の推進」	安全・安心で快適に、そして緑豊かな都市環境を形成するために、地域の特性を生かした特色ある公園や緑地の整備を推進するとともに、既存の公園の安全確保や長寿命化を図るため、市民との協働による公園管理や緑化活動に取り組みます。

< 出典 > 第六次白石市総合計画（令和 3 年 4 月）

3-2-2 マスタープランにおける公園整備の方針

マスタープランでは、「公園・緑地の整備・保全方針」の中で、「都市の拠点公園」と「市街地の公園」に区分し、それぞれの公園の整備方針を示しています。

図表 公園・緑地方針図



< 出典 > 第二次白石市都市計画マスタープラン（令和4年12月）

マスタープランにおける区分ごとの「整備・保全の方針」は下記のとおりです。

区分	整備・保全の方針
②都市の拠点公園、緑地	・拠点公園、緑地は、適切な維持管理を図り、貴重な緑を保全していきます。
③市街地の公園・緑地、身近な緑	・既存の住区基幹公園などは、現在の多様なニーズに対応しながら、老朽化施設の改修を図るなどの機能更新、利便性の向上に努めます。 ・適切な公園の配置を目指し、公共空地などを活用して公園機能を補完していきます。

< 出典 > 第二次白石市都市計画マスタープラン（令和4年12月）

3-2-3 立地適正化計画における公園整備の方針

立地適正化計画では、誘導方針2で居住誘導区域内の良好な住環境の保全を図ることを示しています。公園は良好な住環境の保全を図るために必要となる重要な都市施設であることから、整合を図ることとします。

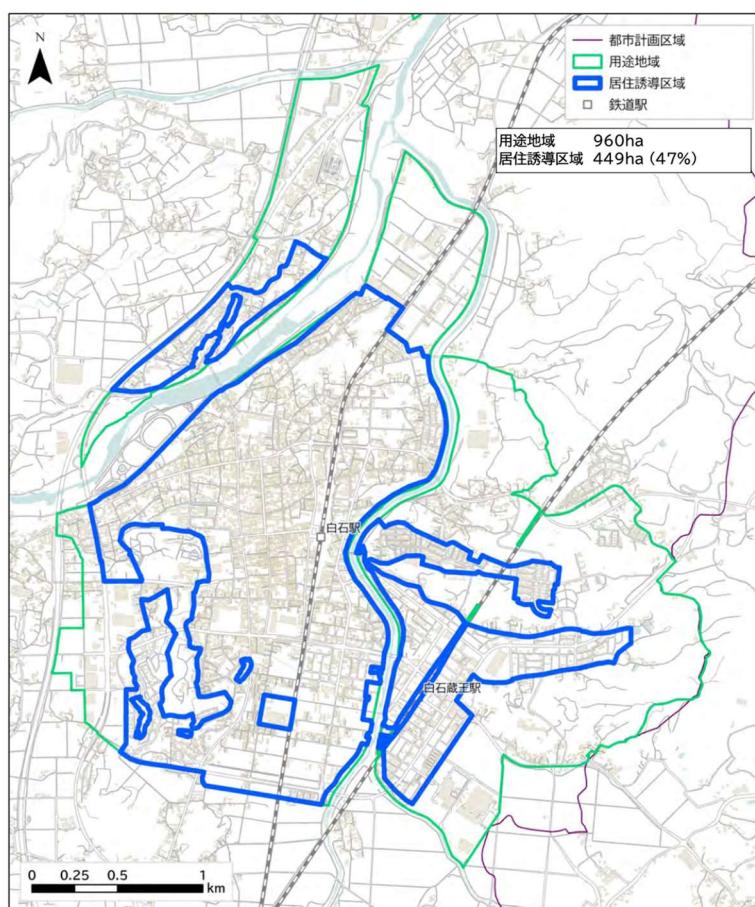


図 5-8 居住誘導区域

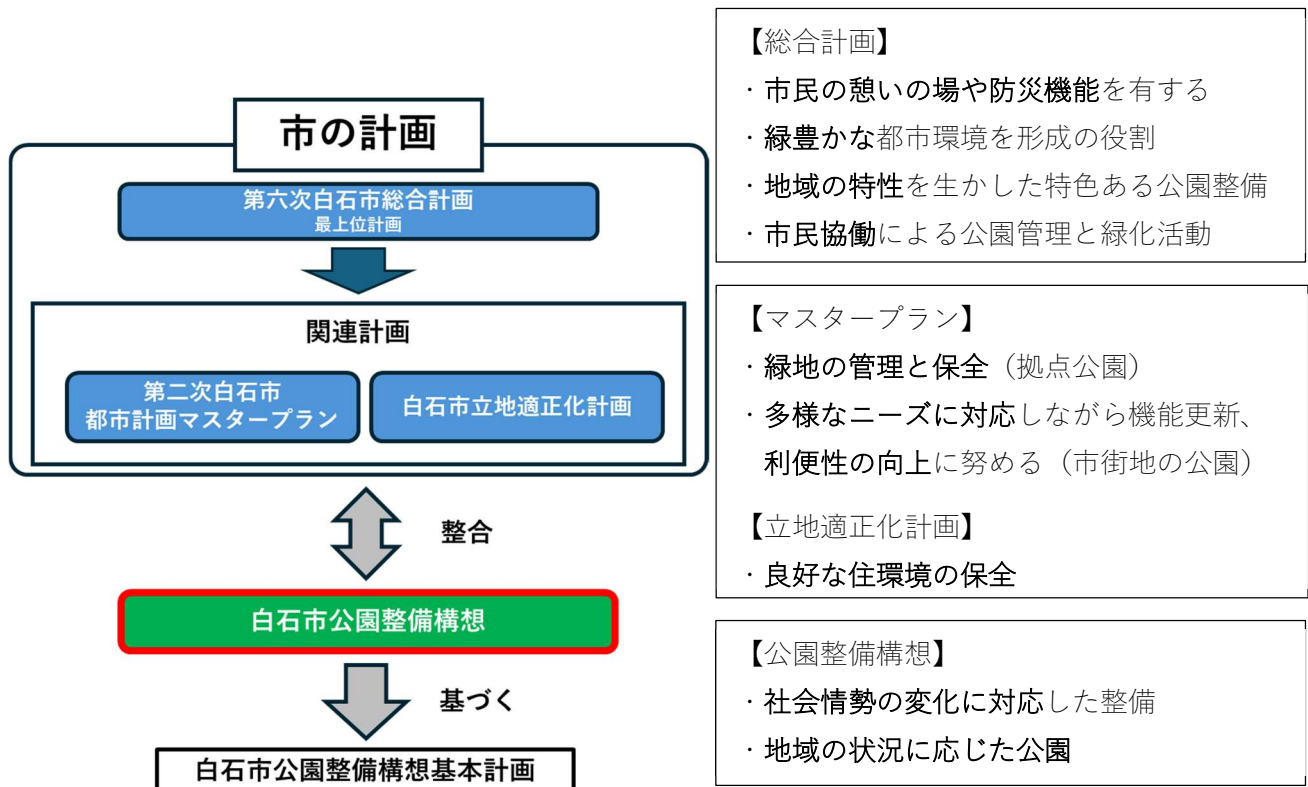
< 出典 > 白石市立地適正化計画（令和7年3月）

3-2-4 本市の計画・構想における公園整備の方針の整理

総合計画、マスタープラン、立地適正化計画における公園整備の方針を整理すると、従来の都市における「緑化環境の形成・管理保全」の役割や、「市民の憩いの場・防災機能」を維持しながらも、「社会情勢や地域の状況へ対応」、「多様なニーズへの対応」、「利便性の向上」による特色のある整備と、「市民協働」による維持管理の推進を検討していくことが重要となります。

また、立地適正化計画の誘導方針から、居住誘導区域内の公園は、「良好な住環境の保全」を重視し、整備方針を検討する必要があります。

図 本市の計画・構想における公園整備の方針の整理



3-3 機能更新型公園の整備方針

3-3-1 機能更新型公園の整備方針

人口動態の変化や、公園の利用形態の変化など、公園を取り巻く環境変化に伴い、効率的な維持管理やコスト削減、施設の老朽化による利用禁止の遊具の増加など、様々な課題が出てきている中、総合計画やマスタープラン、立地適正化計画で示されている「市民の憩いの場」、「防災機能」、「緑豊かな都市環境の形成」、「良好な住環境の保全」など、最低限の機能で維持管理することも必要とされます。

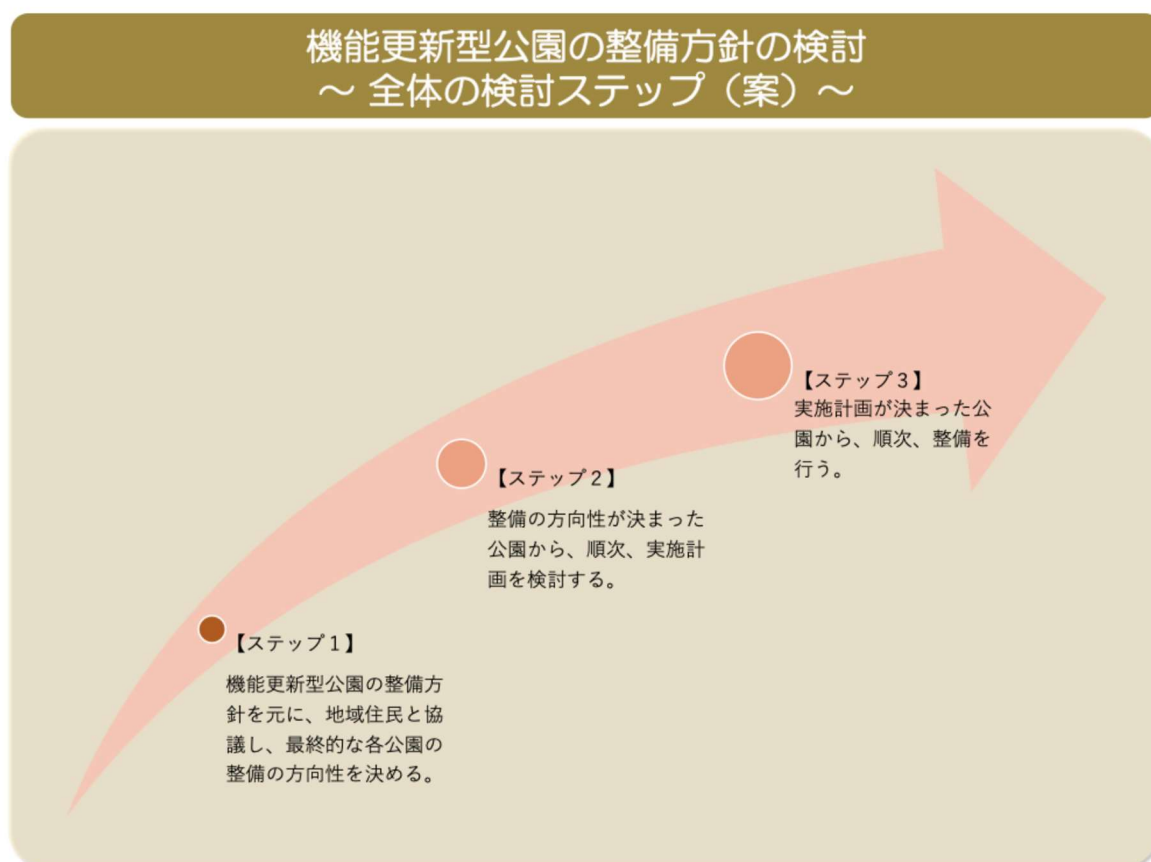
以上のことから、機能更新型に分類された公園は、①公園の自然を重視、②利用者が休憩や憩いの場として利用できるベンチ等の設置、③災害時に活用できる広場の維持を整備方針とします。

3-3-2 整備方針の検討ステップ

各公園の整備方針は、以下のステップで検討します。

- 【ステップ1】 機能更新型公園の整備方針を元に、地域住民と協議し各公園の整備の方向性を決める。
- 【ステップ2】 整備の方向性が決まった公園から、順次、実施計画を検討する。
- 【ステップ3】 実施計画が決まった公園から、順次整備を行う。

図 整備方針の検討ステップ



公園整備構想で位置付けた「地域のcommons」としての都市公園を、持続可能な形で維持管理していくためには、本市の上位計画である総合計画で示されている「市民協働による公園管理」が重要となります。そのため、地域住民との協議を大切にし、地域住民と連携した維持管理を目指しながら、各公園の整備方針を検討していきます。

第4章 機能創造型公園の整備方針の検討

令和 6（2024）年度に策定した公園整備構想において、「機能創造型公園」は、都市公園の将来像を踏まえた新たな公園創造を進め、必要に応じて長寿命化対策を実施することに加え、公園の機能や付加価値をより高めることで、公園利用者の利便性向上を図り、市民、そして来訪者に本市のシンボルとして認知される公園を目指すこととしています。

機能創造型公園としては、歴史文化と自然の両方を感じることが出来る「益岡公園」と、豊かな自然環境や温泉に恵まれた「スパッシュランドパーク」が分類されています。



益岡公園



スパッシュランドパーク

4-1 上位計画と機能創造型公園の整備における整合性

4-1-1 総合計画との接点

総合計画では、目指すまちの将来像として「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」を掲げ、実現のための4つの重点戦略を設定しており、それぞれの機能創造型公園の整備方針との接点は次のとおりです。

① 次代を担う子ども輝き戦略

「まちへの誇りと愛着を持つ児童・生徒の育成」の主な取り組みとして「歴史遺産・伝統文化の次代への継承」や「シビックプライドの醸成」、また「特色ある教育の推進」の取り組みとして「歴史遺産・伝統文化の価値を再認識する機会の創出」を挙げています。

重点戦略1 次代を担う子ども輝き戦略	
方向性	関連する主な取組
基礎・基本学力の向上	○夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成 ○教育政策推進のための基盤整備
基礎体力の向上	○団体・組織などの育成・活動支援 ○スポーツ環境の整備
まちへの誇りと愛着を持つ児童・生徒の育成	○歴史遺産・伝統文化の次代への継承 ○まちづくり宣言の実現への支援 ○シビックプライドの醸成
特色ある教育の推進	○夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力の育成 ○地域の人材を活用した子どもの学習機会の充実 ○歴史遺産・伝統文化の価値を再認識する機会の創出
安心して出産・子育てができる環境の充実	○妊娠期からの切れ目のない包括的な支援の充実と子どもの健康の確保 ○安心して子育てができる環境の整備

< 出典 > 第六次白石市総合計画（令和3年4月）

② 住民主体の地域づくり戦略

「地域課題の把握・共有」の主な取り組みとして「市民との対話の重視」、また「地域を牽引する人材（リーダー）の育成」の主な取り組みとして「地域マネジメントをリードする人材育成」を挙げています。

重点戦略2 住民主体の地域づくり戦略	
方向性	関連する主な取組
地域における多様な交流・連携による支え合いの体制づくり	○地域単位での互助・共助の仕組みづくり ○防災意識の向上
地域課題の把握・共有	○ライフスタイルに適したコミュニティの形成支援 ○市民との対話の重視
地域を牽引する人材（リーダー）の育成	○まちづくり協議会の機能及び経営基盤の強化 ○地域マネジメントをリードする人材育成
地域づくり計画の策定、推進支援	○協働の地域づくりを推進するための体制・環境整備 ○まちづくり宣言の実現への支援
女性・高齢者が活躍できる場の整備	○生きがいづくり・介護予防の推進 ○消防力強化の推進 ○多文化・多世代の共生、多様性を認め合う取り組み
自主防災組織の強化、地域防災力の向上	○地域による支え合いの体制づくり ○自主防災組織の育成支援

< 出典 > 第六次白石市総合計画（令和3年4月）

③ まちの魅力づくり戦略

「まちの魅力の発掘・再発見」の主な取り組みとして「歴史遺産・伝統文化の価値を再認識する機会の創出」、「歴史遺産・伝統文化を体感できる環境の整備」、「自然に親しむ場、機会の充実」を挙げています。

次に、「自然・歴史・伝統・文化の継承、魅力向上」のための主な取り組みとして「歴史遺産・伝統文化を活用したまちづくりの推進」や「観光資源の整備・活用」を挙げています。

また、「白石城・しろいし SunPark を活用した賑わいづくり」の主な取り組みとして「特産品・伝統製品の振興」や「インバウンドの推進」を挙げています。

そして、「魅力ある景観の形成」の主な取り組みとして「自然環境・自然景観の保全」や「美しい景観の形成」を挙げています。



重点戦略3 まちの魅力づくり戦略

方向性	関連する主な取組
まちの魅力の発掘・再発見	○歴史遺産・伝統文化の価値を再認識する機会の創出 ○歴史遺産・伝統文化を体感できる環境の整備 ○自然に親しむ場、機会の充実
自然・歴史・伝統・文化の継承、魅力向上	○歴史遺産・伝統文化を活用したまちづくりの推進 ○観光資源の整備・活用
白石城・しろいし SunPark ^{マンパルク} を活用した賑わいづくり	○安心して子育てができる環境の整備 ○特産品・伝統製品の振興 ○インバウンドの推進
農工商連携、六次産業化による農産物などの高品質化、高付加価値化	○農林産物の高付加価値化 ○販路拡大への支援
魅力ある景観の形成	○自然環境・自然景観の保全 ○美しい景観の形成 ○計画的な土地利用の推進

< 出典 > 第六次白石市総合計画（令和3年4月）

④ 輝く未来地図戦略

「観光振興・賑わいの創出」の主な取り組みとして「観光資源の整備・活用」や「広域観光の推進」を挙げています。

重点戦略4 輝く未来地図戦略 	
方向性	関連する主な取組
災害時における安定的な輸送の確保	○社会基盤・住宅などの耐震化の推進
防災力の強化	○防災力強化の推進
観光振興・賑わいの創出	○観光資源の整備・活用 ○広域観光の推進 ○観光推進体制の構築・強化 ○新たな賑わい拠点の整備
企業支援及び新規企業誘致による働く場の創出	○製造業を中心とした企業誘致活動の推進 ○雇用の創出 ○就労・創業支援
未来につなぐ新しい価値の創造拠点形成	○スマートインターチェンジの整備・活用推進

< 出典 > 第六次白石市総合計画（令和3年4月）

このように、総合計画に掲げる将来像および4つの重点戦略は、いずれも「人」「地域」「歴史・文化」「自然」「交流」を核とした持続的なまちづくりを目指すものであり、機能創造型公園の整備方針と高い親和性を有していると言えます。

特に、子どもや若者が地域の歴史・文化・自然に触れながら学び、誇りと愛着を育む場としての役割、市民が主体的に関わり交流や対話が生まれる地域活動の拠点としての役割、さらには観光や交流人口の拡大につなげる魅力発信の拠点としての役割が、公園整備において期待されています。

このことから、機能創造型公園は単なる憩いの場にとどまらず、総合計画に掲げる各戦略を横断的に支える「人と地域をつなぐ基盤」として位置付けられます。

4-1-2 マスタープランとの接点

マスタープランでは、まちづくりの課題として、次の3つの視点を設定しています。機能創造型公園の整備方針との接点は次のとおりです。

① 土地利用に関する課題

農地・山林の活用において「第1次産業の振興、田園など地域資源の観光、交流、景観形成に向けた有効活用」を挙げています。

1-1 土地利用に関する課題

	課題
住宅地	・ 少子高齢化の現状を踏まえ、安全かつ快適に過ごせる住環境づくり ・ 既存の市街地を維持し、安全・安心なコンパクトなまちづくり
商業地	・ 本市にふさわしい、都市機能が集積した魅力ある市街地づくり ・ 白石駅前の中心市街地の活性化や利便性の向上
工業地	・ 雇用促進、産業の活性化を支援する基盤づくり ・ 産業振興のための適正な土地利用誘導と、企業誘致促進に向けた働きかけ
農地・山林	・ 良好な農用地を維持・保全、既存集落地の環境保全・改善 ・ <u>第1次産業の振興、田園など地域資源の観光、交流、景観形成に向けた有効活用</u>

< 出典 > 第二次白石市都市計画マスタープラン（概要版）（令和4年12月）

② 都市施設に関する課題

公園・緑地の活用において「市民の憩いの拠点となる市街地内の公園・緑地の確保の検討」や「自然環境などを活用し、景観や防災、住民のレクリエーションのための公園・緑地の確保の検討」を挙げています。

1-2 都市施設に関する課題

	課題
交通施設	・ 広域連携を促進する国、県道など幹線道路の維持 ・ 安全で快適な生活のため身近な道路の整備や歩行空間の確保 ・ 市民が気軽に利用できるバスなどを中心とした公共交通の維持、充実
公園・緑地	・ <u>市民の憩いの拠点となる市街地内の公園・緑地の確保の検討</u> ・ 災害時の拠点となる防災公園等の整備についての検討 ・ <u>自然環境などを活用し、景観や防災、住民のレクリエーションのための公園・緑地の確保の検討</u>
公共下水道と河川	・ 災害に強いまちづくりのため、河川、水路などの治水機能の強化 ・ 快適な住環境と自然環境を保全するため、下水道施設の適切な維持・管理
公共公益施設	・ 市街地に集積されている都市施設の機能維持と適正な再配置による利便性の向上 ・ 高齢者など、だれもが安心して利用できる施設のバリアフリー化の促進

< 出典 > 第二次白石市都市計画マスタープラン（概要版）（令和4年12月）

③ 都市環境に関する課題

景観に関しては、「本市を特徴づける樹林地や田園景観、河川などの自然景観の保全」や「住民が主体となった景観づくりの誘導」を挙げています。

また、環境に関しては、「本市を象徴する山、河川などの豊かな自然環境の保全・活用」や「自然環境に配慮し、環境負荷の少ない資源循環型のまちづくり」を挙げています。

1-3 都市環境に関する課題

	課題
景観	・本市を特徴づける樹林地や田園景観、河川などの自然景観の保全 ・道路などの公共施設の整備に伴う、街路樹など緑化の推進 ・住民が主体となった景観づくりの誘導
防災	・防災拠点施設や安全な避難路・避難道路の確保、建築物の耐震化 ・防災、減災意識のさらなる啓発、自主防災活動などによる防災意識の向上
環境	・本市を象徴する山、河川などの豊かな自然環境の保全・活用 ・自然環境に配慮し、環境負荷の少ない資源循環型のまちづくり

<出典> 第二次白石市都市計画マスタープラン（概要版）（令和4年12月）

マスタープランにおける将来都市構造の中の都市拠点のあり方においては、次の2つの視点を設定しています。機能創造型公園の整備方針との接点は次のとおりです。

① 交流拠点

歴史文化資源、温泉資源を活用して市内外から訪れる人々をもてなす、人と地域資源がふれあう交流の拠点の形成として、「白石城、武家屋敷などの歴史的観光施設周辺」と「小原温泉などの温泉郷」を位置づけています。

(5) 交流拠点

白石城、武家屋敷などの歴史的観光施設周辺と小原温泉、鎌先温泉などの温泉郷を位置づけます。歴史文化資源、温泉資源を活用して市内外から訪れる人々をもてなす、人と地域資源がふれあう交流の拠点を形成します。

<出典> 第二次白石市都市計画マスタープラン（令和4年12月）

② レクリエーション拠点

豊かな自然環境を保全しながら、自然と一体となった余暇利用空間の拠点の形成として、「スパッシュランドパーク」を位置付けています。

(6) レクリエーション拠点

白石川緑地、スパッシュランドパーク、材木岩公園、みやぎ蔵王白石スキー場、南蔵王色彩の森、国立南蔵王青少年野営場、大萩山公園を位置づけます。豊かな自然環境を保全しながら、自然と一体となった余暇利用空間の拠点を形成します。

<出典> 第二次白石市都市計画マスタープラン（令和4年12月）

このように、マスタープランにおいて示されている土地利用、都市施設、都市環境に関する課題は、いずれも自然環境や地域資源を活かしながら、暮らしの質と都市の魅力を高めていくことを重視しています。

特に、公園・緑地については、市民の日常的な憩いの場としての機能に加え、景観形成、防災、レクリエーション、交流促進といった多様な役割が求められており、機能創造型公園が果たすべき役割と方向性は一致しています。

また、将来都市構造における交流拠点およびレクリエーション拠点の位置付けは、歴史・文化資源や自然環境と連携した公園整備の重要性を示しており、機能創造型公園は都市拠点間をつなぎ、都市全体の回遊性や魅力向上を支える基盤として位置付けられます。

4-1-3 白石市立地適正化計画との接点

立地適正化計画において、まちづくりの基本方針として「城下町の歴史・文化と豊かな暮らしを守り、育み ともに未来を創造するまち しろいし」を掲げており、誘導方針としては「歴史ある城下町ならではの文化を受け継ぎ、市民が誇りを持って暮らし続けたいと思えるまちなかの形成」を挙げています。

【まちづくりの基本方針】	
城下町の歴史・文化と豊かな暮らしを守り、育み ともに未来を創造するまち しろいし	
誘導方針1 人々の交流を育む拠点を中心とした賑わいあるまちなかの創出	
本市の中心としてふさわしい都市機能を誘導するとともに、公共施設の計画的な再編を進めながら、賑わいのあるまちなかを創出するとともに、市民が集う利便性の高い拠点づくりを進めます。また、 <u>歴史ある城下町ならではの文化を受け継ぎ、市民が誇りをもって暮らし続けたいと思えるまちなかの形成を図ります。</u> 同時に、集落の拠点の維持を図ります。	

< 出典 > 白石市立地適正化計画（令和7年3月）

上記のように、立地適正化計画で示されている基本方針および誘導方針は、白石城を中心とした城下町の歴史・文化を活かしながら、暮らしの質を高め、将来にわたって人が住み続けたいと感じられる都市構造の形成を目指すものです。

この中で、公園は、まちなかにおける貴重なオープンスペースとして、居住環境の質を高めるとともに、歴史・文化資源と日常生活をつなぐ役割を担う重要な都市機能と位置付けられます。

機能創造型公園である益岡公園については、城下町の文脈を継承した空間づくりや、市民の交流・憩い・活動の場としての機能を通じて、立地適正化計画が目指す「まちなかの形成」および「市民が誇りを持って暮らし続けられる環境づくり」に貢献する基盤として位置付けられます。

4-2 上位計画との関連における機能創造型公園の整備の方向性

これまで整理してきた総合計画、マスタープラン、立地適正化計画と機能創造型公園の接点を踏まえ、次のように、公園整備の方向性を総括的に整理します。

① 歴史・文化・自然を活かした白石らしい公園づくり

白石城をはじめとする城下町の歴史・文化資源や、山・川・田園などの豊かな自然環境を活かし、地域の文脈を継承した公園整備を行っていきます。

また、景観形成に配慮するとともに、来訪者に白石市の魅力を体感してもらえる空間とし、市民の誇りや愛着の醸成につなげていきます。

② 市民主体・協働による公園づくりと地域力の向上

計画段階から管理・活用に至るまで、市民や地域団体との対話と協働を重視し、主体的な関与を促していきます。

また、公園を通じて地域活動や人材育成が進み、住民主体の地域づくりを支える拠点となることを目指していきます。

③ 交流・観光・賑わいを創出する拠点機能の強化

交流拠点・レクリエーション拠点としての位置付けを踏まえ、市内外から訪れる人々と市民が交わる場としての公園機能を強化していきます。

また、歴史観光、自然体験、イベント等と連携し、回遊性と滞在性の向上による賑わい創出を図っていきます。

④ 環境・防災に配慮した持続可能な公園整備

自然環境の保全や環境負荷の低減を重視し、緑のネットワーク形成や資源循環に配慮した公園整備を進めます。既存の自然環境を活かした空間構成や、維持管理を見据えた持続可能な整備手法を採用することで、将来にわたり安定的に機能する公園の形成を目指していきます。

あわせて、防災機能を備えたオープンスペースとしての役割を担い、災害時における避難や一時的な活動拠点としても活用可能な公園整備を行っていきます。

環境と防災の両面から、公園が地域の安全性と持続性を支える基盤となるよう、整備および運営を推進していきます。

⑤ 都市構造と連動した公園配置とネットワーク形成

マスタープランおよび立地適正化計画が示す都市拠点構造との整合を図り、公園を都市機能や交流・観光拠点を有機的につなぐ重要なオープンスペースとして位置付けます。あわせて、歩行者動線や緑の連続性を意識した空間形成を進めるとともに、周辺観光資源や広域的な観光動線との連携を図ることで、拠点間の回遊性を高め、広域観光の推進とまちなか全体の快適性・魅力向上を図っていきます。

⑥ 産官学民連携による持続可能な公園運営の推進

公園の魅力向上と長期的な維持管理の両立を図るため、パーク PFI 制度等の官民連携手法の導入可能性を検討し、民間のノウハウや活力を活かした公園運営を推進します。あわせて、大学・研究機関等と連携した調査研究や実証的な取り組み、教育・人材育成の場としての活用を図ることで、公園を知と実践が循環するフィールドとして位置付けていきます。

さらに、指定管理者制度や市民団体との協働など多様な運営手法を組み合わせることで、財政負担の軽減とサービス水準の向上を図り、産官学民が役割を分担しながら参画する、持続可能で自立性の高い公園運営体制の構築を目指していきます。

4-3 益岡公園の整備方針の検討

4-3-1 益岡公園の現状整理

益岡公園は、白石城を中心とする城下町の中核に位置し、古墳遺跡をはじめ、戦国期から江戸期にかけての城郭・武家屋敷、商家文書や工芸品など、多層的な歴史遺産に囲まれた極めて文化的価値の高いエリアに立地しています。

また、益岡公園は桜の名所として市内外に広く知られており、春には200本を超える桜が咲き誇り、開花時期には、多くの花見客で賑わいを見せています。加えて、白石高等学校によるモミジの植樹意向が示されるなど、教育機関との関わりも生まれており、公園を通じた次世代への緑と文化の継承の可能性を有しています。



< 出典 > 宮城県史跡地図・指定文化財地図（国土地理院地図）

4-3-2 益岡公園を取り巻く課題

上記のような魅力を有する一方で、益岡公園には次のような課題があります。

① 日常利用の促進と平常時の賑わい創出

桜まつりなどの季節イベント時には多くの来訪者が見られるものの、年間を通じた継続的な利用には十分につながっていない状況です。そのため、公園内の多様な空間を活用した定常的な活動やプログラムの展開が求められています。

② 歴史・文化資源の発信力強化

白石城や歴史探訪ミュージアムといった重要な文化資源が近接している一方で、益岡公園全体として、それらの価値を体験的に伝える仕組みが十分に整っていないと断言できません。史跡的価値と緑地空間を融合させた解説や体験型の取り組みの充実が必要とされています。

③ 運営管理の継続性と維持管理の効率化

遊具や園路等の老朽化への対応は進められているものの、今後の長期的な維持管理や財政負担の軽減を見据えると、運営体制のさらなる強化が求められます。

PFI等の官民連携手法の導入を含め、持続可能な公園運営のあり方について検討していく必要があります。

4-3-3 益岡公園の課題解決の方向性と整備コンセプト

益岡公園の整備にあたっては、マスタープランおよび立地適正化計画に示される基本方針や将来像との整合を図りながら、歴史・文化・自然という本公園固有の地域資源を基軸とした一体的な再構築を進めていく必要があります。

総合計画が掲げる「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現に向けては、益岡公園を、市民が誇りと愛着を持てる場であると同時に、交流や学びが生まれる公共空間として機能させることが求められます。そのため、白石城や歴史探訪ミュージアムとの連携を強化し、公園全体を通じて歴史や文化を体験的に学べる空間形成を進めていきます。

また、マスタープランにおける都市拠点形成や公園・緑地の多機能化の考え方を踏まえ、益岡公園を都市拠点や観光拠点をつなぐ重要なオープンスペースとして位置付けます。歩行者動線や緑の連続性に配慮した整備により、白石城周辺の回遊性と滞在性の向上を図り、日常利用と観光利用の双方に対応した公園空間の形成を目指していきます。

さらに、立地適正化計画が目指す、城下町の歴史・文化を活かした「まちなか」の形成や居住環境の質の向上につなげるため、益岡公園を暮らしに身近な憩いの場であると同時に、交流や活動が生まれる拠点として再構築します。多様な利用を受け止めることで、平常時の利用促進と賑わいの創出を図っていきます。

あわせて、各計画に共通して求められている持続可能な公共施設の管理・運営の観点から、PFI方式を含む官民連携の導入可能性を検討し、公園の魅力向上と維持管理の効率化を両立させた運営体制の構築を進めていきます。

以上を踏まえ、益岡公園の整備コンセプトを次のとおり設定します。

「歴史・文化を活かし、市民の誇りと交流を育み、 白石城周辺の回遊性と滞在性を高める公園整備」

本コンセプトは、益岡公園を単なる公園施設として整備するのではなく、白石城を核とした城下町全体の価値を高める「まちづくりの基盤」として再定義するものです。

その実現にあたっては、空間整備のみならず、利用のあり方や運営の仕組みも含めて一体的に検討し、公園が果たすべき役割を多角的に具体化していく必要があります。

そこで、本計画では、整備コンセプトを具体の整備方針へと展開するため、益岡公園に求められる機能や価値を整理し、複数の視点から整備の方向性を明確化します。

「歴史と文化」「誇りと継承」「観光と連動」「産官学民連携」といったキーワードを軸に、整備コンセプトを具現化するための考え方と整備のあり方を示します。これらのキーワード別整備コンセプトは、それぞれが独立した要素ではなく、相互に関連しながら益岡公園の価値を高めていくものです。

公園を起点に、人・地域資源・都市拠点がつながり、回遊性と滞在性を備えた城下町空間が形成されることで、市民と来訪者の双方にとって魅力あるまちづくりへとつなげていきます。

① 歴史と文化

白石城を核とした城下町の歴史的資源と一体となり、歴史と文化を「知る」「学ぶ」「体験する」ことができる公園整備を進めます。

そして、史跡や文化施設との連携に加え、園路や広場、植栽、サイン計画などの空間デザインに歴史的文脈を織り込むことで、公園全体を城下町の歴史を体感できる屋外空間として位置付けます。

さらに、公園を起点に、白石城周辺を歩いて巡ることで、歴史の重なりや物語を感じられる回遊型の歴史文化空間の形成を目指します。

② 誇りと継承

益岡公園を、市民が地域の歴史や文化に誇りを持ち、それを次世代へと継承していくための拠点とし、学校教育や地域団体と連携した学習・体験の機会を創出し、子どもから大人までが日常的に歴史や文化に触れられる環境を整備します。

また、公園での体験を通じて育まれるシビックプライドを、将来にわたり白石を支える人材や地域活動へとつなげていきます。

③ 観光と連動

白石城周辺の観光拠点、中心市街地、温泉地等と連動し、益岡公園を城下町観光の回遊動線上に位置付けます。

そして、観光客が「立ち寄る」だけでなく「滞在し、くつろぎ、あじわう」ことができる空間を整備することで、滞在時間の延伸と平常時の賑わい創出を図ります。

また、市民の日常利用と観光利用が共存する公園として、白石市全体の観光価値とまちなかの魅力向上につなげていきます。

④ 産官学民連携

益岡公園の整備・運営にあたっては、行政だけでなく、民間事業者、教育機関、地域住民との連携を重視します。

PFI 方式を含む官民連携や市民参画を通じて、多様な知見やアイデアを取り込み、持続可能で創造性の高い公園運営を実現します。

そして、地域資源を活かした実験的な取り組みや新たな価値創出を通じて、益岡公園を「共につくり、育てていく」公園として位置付けていきます。

4-4 益岡公園の整備像と整備の考え方

4-4-1 益岡公園の整備像

益岡公園の整備にあたっては、上位計画を踏まえ、城下町白石の歴史・文化を支える公園としての役割を明確にしながら、時間をかけて整備方針を具体化していくことが重要です。

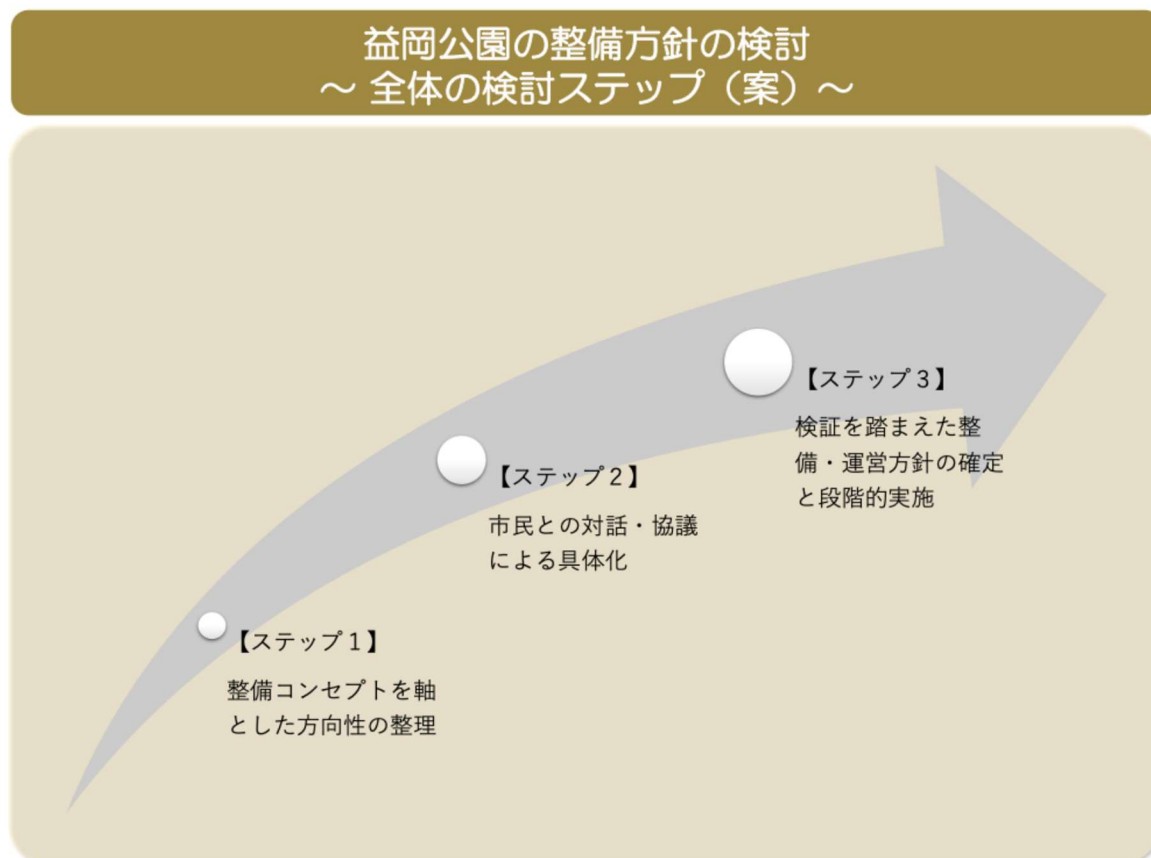
公園を単独の施設として捉えるのではなく、まち全体の将来像と連動した「まちづくりの一部」として位置付け、段階的な検討と合意形成を重ねていく必要があります。

4-4-2 益岡公園の整備方針の検討ステップ

益岡公園の整備方針は、整備コンセプトに関わる整理から市民との協議、検証を経た整備・運営方針の確定に至るまでを、複数の段階に分けて検討整理します。

各ステップを通じて、市民や関係者との対話を重ねながら、柔軟かつ持続可能な公園づくりを進めていく考え方を示すものです。

図 益岡公園の整備方針の検討ステップ



【ステップ1】整備コンセプトを軸とした方向性の整理

これまでに整理した整備コンセプトを踏まえ、まち全体の将来像と連動した益岡公園に求められる役割や機能の方向性を整理していきます。

「歴史と文化」「誇りと継承」「観光と連動」「産官学民連携」といった視点を軸に、公園が果たすべき価値や将来像を明確化し、整備の大枠となる方向性を設定します。

この段階では、施設配置や具体的な整備内容を固定せず、将来の検討や市民意見を取り込める柔軟な枠組みとして整理していきます。

【ステップ2】市民との対話・協議による具体化

整備コンセプトを共有したうえで、市民や関係団体との対話・協議を通じて、公園の使い方や期待される役割、課題について意見を集約します。

ワークショップや意見交換等を通じて、市民の視点を取り入れながら、整備方針の具体化を段階的に進めます。

【ステップ3】検証を踏まえた整備・運営方針の確定と段階的实施

市民協議や試行的な取り組みの結果を踏まえ、整備内容や運営の考え方を整理・検証したうえで、段階的な整備および運営方針を確定します。

あわせて、産官学民連携や PFI 方式等の導入可能性を検討し、持続可能な管理・運営体制の構築につなげていきます。

益岡公園は、一度に完成させるのではなく、まちの変化や市民の関わりに応じて更新され続ける公園として、段階的に整備・活用を進めます。

4-5 スパッシュランドパークの整備方針の検討

4-5-1 スパッシュランドパークの現状整理

スパッシュランドパークは、白石市南西部の小原地区に位置し、白石川沿いの豊かな自然環境に囲まれた、いわゆる「奥座敷」としての性格を有する公園です。山あいの地形や河川景観といった自然条件に恵まれ、市街地とは異なる非日常的な環境を提供できる立地特性を備えています。

園内では、自然景観と調和した四季折々の植栽が施されており、花の季節には来訪者が集中する傾向が見られます。また、小原温泉郷と隣接していることから、観光や保養との親和性が高く、滞在型観光との連携が期待される立地となっています。

マスタープランでは、将来都市構造の中の「レクリエーション拠点」に位置付けられており、自然と一体となった余暇・交流空間としての役割が期待されています。

一方で、スパッシュランドしろいしは現在休館中であり、園内施設の活用が限定的となっています。

4-5-2 スパッシュランドパークを取り巻く課題

現状を踏まえるとスパッシュランドパークには、以下のような課題があります。

① 新たな観光需要を訴求する要因の不足

観光シーズンの核となっていた芝桜について、生育状況が芳しくないことから、従来の魅力に依存した集客が難しくなりつつあり、新たな来訪動機の創出が求められています。また、閉館中であるスパッシュランドしろいしの再利活用についても、早急な方向性の整理が必要となっています。

② 若年層・ファミリー層および観光利用を意識した機能・プログラムの不足

園内の遊具は老朽化により現在使用が制限されており、利用者の満足度低下が懸念されています。あわせて、小原温泉郷や白石城エリアといった市内観光資源との回遊動線や滞在時間を意識した連携が十分とは言えず、広域的な観光動線の構築が求められています。

③ 将来的な運営管理体制のあり方

自然環境を活かした公園である一方、維持管理には一定のコストと専門性が必要であり、今後の持続可能な運営を見据え、新たな運営管理手法の導入可能性を検討していく必要があります。

4-5-3 スパッシュランドパークの課題解決の方向性と整備コンセプト

これらの課題に対応するため、スパッシュランドパークの整備にあたっては、総合計画、マスタープランおよび立地適正化計画に示される方針との整合を図りながら、白石市の自然資源を最大限に活かした機能創造型公園としての再構築を進めていくことが重要です。

総合計画が掲げる「自然に親しむ場、機会の充実」や「観光資源の整備・活用」の視点を踏まえ、スパッシュランドパークを、自然体験・環境教育・観光交流が融合した拠点として位置付けます。

具体的には、グリーンツーリズムや農業体験、自然体験プログラムの展開など、白石市の資源を活かした体験型コンテンツの導入を図ります。

また、マスタープランにおける「レクリエーション拠点」としての位置付けを踏まえ、自然環境と調和した遊び・学びの空間整備を進めるとともに、小原温泉郷や白石城エリア等との連携強化により、広域観光の推進と滞在時間の延伸を目指し、平常時の賑わい創出を図ります。

さらに、立地適正化計画の趣旨である「地域資源を活かした持続可能なまちづくり」の観点から、産官学民連携を重視した運営体制の構築を進め、PFI 方式等の導入を視野に入れた持続可能な公園運営を検討します。

これらを踏まえ、スパッシュランドパークの整備コンセプトを次のとおり設定します。

「 自然と遊び、学びを融合した、観光・交流型の公園整備 」

スパッシュランドパークは、白石市が有する豊かな自然環境を最大限に活かし、自然体験・環境教育・観光交流が融合した拠点として再構築します。

次に整備コンセプトを具体化するため、「自然と学び」「自然と遊び」「観光と連動」「産官学民連携」の4つのキーワードを軸に、整備の考え方を示します。

① 自然と学び

スパッシュランドパークを、白石市らしい自然環境を活かした環境教育・体験学習の拠点として整備します。

そして、山林、河川、里山といった多様な自然をフィールドに、自然観察にとどまらず、森林、水循環、生態系、農と暮らしの関係などを体験的に学べる場とします。

さらに、学校教育や社会教育と連動したプログラムを展開し、「遊びながら学ぶ」体験を通じて、自然と共生する意識を育む公園として位置付けます。

② 自然と遊び

自然環境と調和した遊びの空間を整備し、日常的に自然と触れ合いながら、心身のリフレッシュができる公園を目指します。

また、人工的な遊具だけでなく、地形や植生、水辺などを活かした自然遊びの場を創出し、ファミリー層から若年層、アクティブシニアまで幅広い世代が楽しめる、市民の健康増進と交流促進に貢献するレクリエーション拠点として機能させます。

③ 観光と連動

スパッシュランドパークを、小原温泉郷をはじめとする周辺観光資源と連携した滞在型観光の拠点として位置付けます。

そして、四季折々の花が彩る花壇の整備を推進するとともに、自然体験や農業体験、グリーンツーリズム等の体験型コンテンツを導入し、「泊まる＋体験する」観光スタイルを促進します。

また、白石城エリアとのコンセプトを明確にし、城下町観光と自然体験観光をつなぐことで、白石市全体としての広域観光の推進と滞在時間の延伸を図ります。

④ 産官学民連携

スパッシュランドパークの整備・運営にあたっては、行政だけでなく、民間事業者、教育機関、地域住民との連携を重視します。

そして、自然体験や環境教育、観光プログラムの担い手を広く募り、公園を「共にづくり、育てる」場として位置付けます。

また、PFI 方式等の導入を視野に入れ、民間のノウハウを活かした効率的かつ持続可能な管理・運営体制を構築することで、長期的に魅力を維持・向上させる公園運営を目指します。

4-6 スパッシュランドパークの整備像と段階的整備の考え方

4-6-1 スパッシュランドパークの整備像

本整備イメージは、「自然と学び」「自然と遊び」「観光との連動」「産官学民連携」という整備コンセプトを具体化する次の段階として、公園全体を一体的に再構築する方向性を示すものです。

スパッシュランドパークを、白石市らしい自然環境を基盤に、学び・遊び・滞在・交流が有機的につながる複合的な空間へと発展させます。

公園では、山林や里山環境を活かし、子どもから大人までが体験を通して自然の仕組みや暮らしとの関わりを学べる環境を整えます。学校教育や社会教育と連動したプログラムを展開しながら、「遊びながら学ぶ」体験を日常的に実践できる場とします。同時に、地形や植生を活かした自然遊びやレクリエーション機能を充実させ、市民の健康増進や世代間交流を促す憩いの拠点としての役割を高めます。

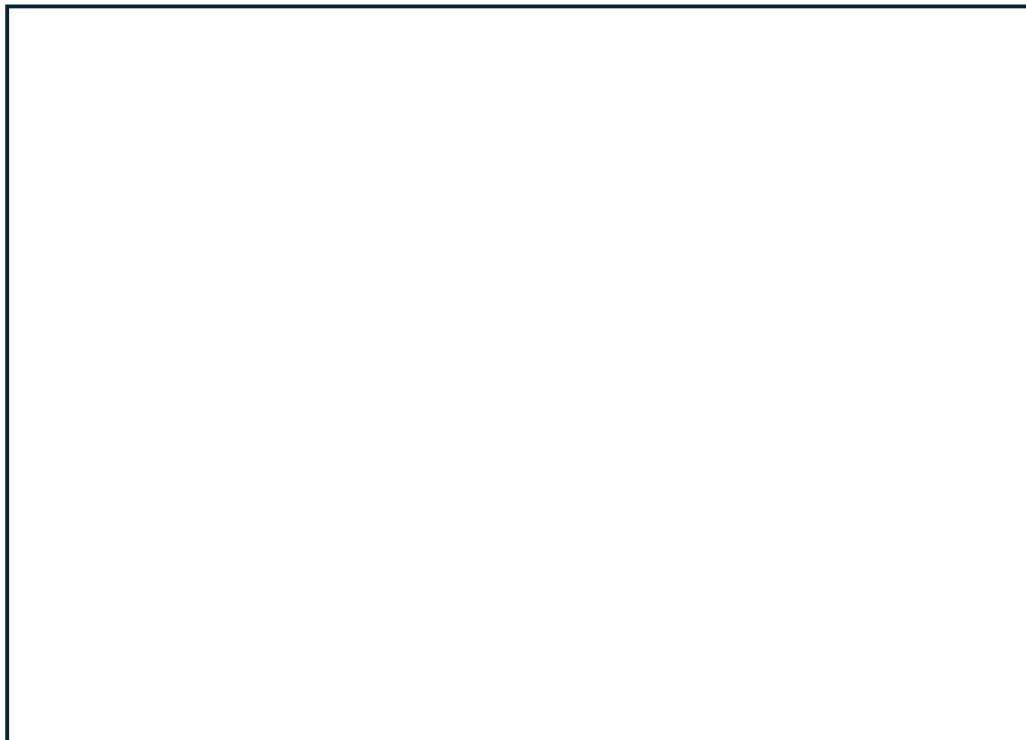


イメージ図挿入予定

さらに、小原温泉郷など周辺観光資源との連携を強化し、自然体験や農業体験を組み合わせた滞在型観光を推進します。白石城エリアとの役割分担を図りながら、歴史観光と自然体験観光をつなぐことで、市内周遊の促進と滞在時間の延伸を目指します。

整備・運営にあたっては、市民や地域団体、民間事業者、教育・研究機関など多様な主体が参画する体制を構築し、公園を「共につくり、育てる」場として発展させます。民間ノウハウの活用も視野に入れた持続可能な運営体制を整え、長期的に魅力を高め続ける公園づくりを進めます。

このようにスパッシュランドパークは、自然を核に学びと遊び、観光と地域づくりが結びつく総合的な拠点として整備し、白石市の新たな魅力と交流を創出する場となることを目指します。



イメージ図挿入予定

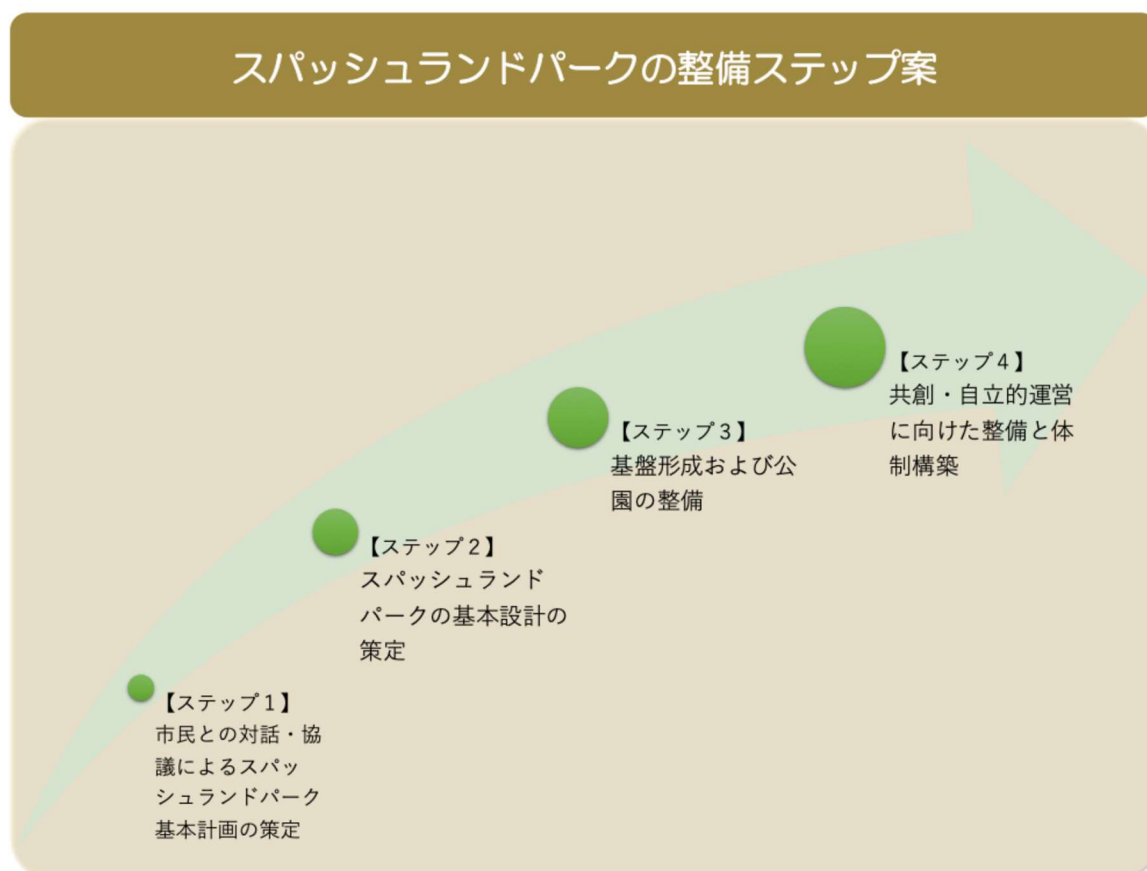
4-6-2 スパッシュランドパークの整備方針の検討ステップ

本計画では、スパッシュランドパークの整備を一度に完成させるのではなく、自然環境への配慮や運営体制の構築、利用ニーズの把握・検証を行いながら、段階的に整備を進めていくことを基本とします。

将来にわたり柔軟で持続可能な公園づくりを実現するため、整備の進め方についても、段階的な視点から整理することが重要です。

以下は、今後の具体的な整備や運営の検討につなげていくため、スパッシュランドパークの整備をどのようなステップで進めていくか、その考え方を示すものです。

図 スパッシュランドパークの整備ステップ案



【ステップ1】市民との対話・協議によるスパッシュランドパーク基本計画の策定

本計画を踏まえ、その具体化に向けて、市民との対話・協議を重ねながら「スパッシュランドパーク基本計画」を策定します。

ワークショップや意見交換会等を通じて、各公園が担う役割や地域特性に応じた方向性を共有・検討し、多様な意見を反映しながら整備の優先順位や段階的な進め方を整理します。

こうして市民と行政が将来像を共有し、合意形成を図りながら、スパッシュランドパークの再編・機能強化に向けた基本計画を取りまとめていきます。

【ステップ2】スパッシュランドパークの基本設計の策定

スパッシュランドパークの再整備に係る基本設計を策定していきます。

本段階では、公園全体のゾーニングや動線計画、主要施設の配置方針等を整理し、段階的な整備を見据えた全体の施設配置計画を明確にします。あわせて、今後の各整備ステップの指針となる空間構成や機能分担の考え方を定めるとともに、民間活力の導入可能性についても検討し、官民連携手法を含めた事業スキームの方向性を整理します。

これにより、持続的かつ発展的な公園づくりを実現するための実効性の高い基盤を構築します。

【ステップ3】基盤形成および公園の整備

整備の初期段階では、入口機能や基本的な受け入れ環境を整備するとともに、自然体験や環境教育の場を段階的に整えます。

来訪者が安心して公園のコンセプトや自然の魅力を理解できる環境を整備し、プログラムやイベント等を通じて初期的な賑わいを創出します。

また、利用状況や課題を検証して、「自然と学び」「自然と遊び」という公園の核となる機能を具体化し、今後の段階的整備・運営に向けた基盤を形成するとともに、中期的な段階では、交流や滞在を伴う利用に対応した空間の整備・拡充を図っていきます。

さらに、自然や文化をテーマとした体験、展示、イベント等に対応できる環境を整備し、多様な利用者が滞在し、交流できる公園としての機能を高め、周辺観光資源との連携を強化し、公園を起点とした回遊性や滞在価値の向上につなげていきます。

【ステップ4】共創・自立的運営に向けた整備と体制構築

最終段階では、産官学民が連携して関わる運営・活用を見据えた空間整備と体制づくりを進めます。

教育・研究・体験・交流が循環する拠点としての機能を整備するとともに、これまでの段階で得られた知見を踏まえ、持続可能で自立性の高い公園運営につなげ、公園の完成形にとどまらず、成長し続ける場となることを目指します。

4-7 機能創造型公園の整備の展望

本計画およびスパッシュランドパーク基本計画を基盤に、各公園に求められる役割や地域特性を踏まえながら、段階的かつ戦略的に整備を進めます。

益岡公園は「歴史文化」、スパッシュランドパークは「自然」をそれぞれの核とし、その特性を最大限に活かした機能の創出と空間形成を図ります。

益岡公園では、白石城を中心とした歴史・文化資源と一体となり、「まちなか」の回遊性と滞在性を高める空間形成を図ることで、城下町全体の価値向上と市民の誇りの醸成につなげます。一方、スパッシュランドパークでは、豊かな自然環境を活かした体験・学習・交流の機能を充実させ、「自然と学び」「自然と遊び」を実践できる拠点として発展させます。

両公園がそれぞれの特性を活かしながら相互に連携し、日常利用と観光利用、都市空間と自然環境を有機的に結び付けることで、多様な主体が関わる持続可能な運営体制を構築します。これにより、白石市全体の魅力向上と地域価値の創出を牽引する公園づくりを目指します。

さらに、イベントや体験プログラム、観光との連動による多様な利用を促進し、地域に新たな賑わいと交流を生み出すとともに、白石市の魅力を内外に発信する拠点として展開します。